

大学生でもできるスモールビジネス

佐藤智甚
リタクジン

目次：

- ① 研究背景
- ② 問題意識・研究目的
- ③ 今のビジネスの現状やスモールビジネスの現状
- ④ スモールビジネスのメリットやデメリット
- ⑤ 結論

問題意識・目的

株式会社マイナビ社が実施した大学1年生から4年生（年齢：18歳～23歳）を対象とした「2021年 大学生のアルバイト実態調査」の結果によると、日本の大学生が現在アルバイトをしている割合は62.9%で、前年と比較して8.9pt減少した（2020年：71.8%）。一方、これまで一度も就業経験がない割合は11.8%と、2.2pt増加した（2020年：9.6%）。

現在働いていない人のうち、アルバイトをしたい人の割合が前年より増加しており、コロナ禍でアルバイトをしたくてもできなかった大学生が増加したと推察されている。

一方、大学生の余暇の過ごし方として、海外と比べた場合、日本の学生はアルバイトや企業のインターンシップに参加する人が多いのに対し、海外ではスモールビジネスとして販売や起業を選ぶ学生が多い。例えば、中国では大学生の7%、米国では同20%の学生がスモールビジネスをしているのである。

そこで、上述の日本の大学生の現状を踏まえて問題を解決する方法の一つとして大学生でもできるスモールビジネスは存在するのか、存在するのであれば実現する可能性はあるのか、追求してみたいというのが本研究の目的である。

内容

まず、一般的な物品販売ビジネスの流れや仕組みを踏まえて、スモールビジネスの全体像を提示した。次に、実際ビジネスを展開した際のメリットやデメリットについての分析、検証を行った。その結果として、大学生が現在の窮状から脱する方法の一つとして大学生でもできるスモールビジネスは十分可能性があることが分かった。

結論：

日本の大学生がスモールビジネスを行うことで以下のような利点があることを確認した。知識面では、多摩大学で学んだいろんな知識を実践することができる。就職の面では、卒業したら会社に入るのも自分で会社を作るのもいい経験になる。お金の面では、アルバイトの代わりにお金を稼ぐことができるし、最小限のリスクで貴重な就業体験ができる。大学生活の面では、より充実した学生生活を送られるし、安価な価格で始められるビジネスによって、将来自分自身で企業経営に携わるための知識の蓄積にも寄与し、また自信にも繋がり、就職するにあたって経験値になると考えられよう。